事　例　報　告　の　要　約

団体名（会員数）	（団体の住所／連絡先）		
福岡市観光案内ボランティア協会	〒812-0039　福岡市博多区冷泉町2－24 （博多町家ふるさと館前）		
	（電　話）	（FAX）	（活動範囲）
（ 72 名）	092-283-2111	092-283-2161	福岡市内・近郊
事例報告者	副代表幹事　　脇 山 静 代 氏		

（設立の経緯／活動の特色）

1995年（平成7年）7月に開催されたユニバーシアード福岡大会等の国内外コンベンションのアフターコンベンションとして、福岡を訪れた観光客へのホスピタリティの向上のため 設立されました。
ボランティアの募集は、協会発足前の平成3年から 4年・12年・18年・20年と順次募集を続け、
福岡市の名簿登録を受けて、ボランティア活動のできる者をもって構成しております。
現在の会員は、男性41名・女性31名です。

活動内容は、

①市および外郭団体等が主催する会議、イベントなどの支援・案内業務で、例えば各種学会、地域交流会議、スポーツ関係のイベントなどの受付事務・司会などです。

②公民館活動や学校活動への派遣案内　　③一般の方からの派遣要望の受け入れ
旅行業者とタイアップした東京・大阪あたりからの修学旅行生の受け入れや、友達と福岡の街を歩きたいから案内して欲しいとか、視察旅行団体からの派遣要請を受け入れています。

④「博多町家ふるさと館」館内案内および周辺地区の無料ガイド（14時から1時間）
博多区の櫛田神社近くのミニ郷土博物館で、館内案内を行なっており、参加申込みが増えております。

⑤「情緒めぐり」など、自主企画によるイベント開催
今年で4年目の企画で、マスコミでも取り上げられ、今では博多の街の秋の風物詩にもなっています。

⑥各種関連会議や大会への支援活動および参加
本日の文化ボランティアフォーラムへの参加や、観光案内ボランティア協議会の全国大会、九州大会、県大会に参加して、その中で組織の運営や方向性などについて情報交換しています。

⑦当番制で協会事務所での受付業務
2年前に受付が行なえる協会事務所を開設し、毎日10時～16時までシフトを組んで交替で受付業務を始めています。

～～～観光案内ボランティアの状況が、実際の映像を使って紹介された～～～

（今後の問題点／課題など）

①ガイドの質の向上を目指すこと。
お客さまと向き合う姿勢や、知識を得る努力など、日頃からガイドの質の向上を考えねばなりません。

②メンバーの中には、退職後の生きがいの一つとしてボランティアに加わった方が多く、構成員の年齢は高い方です。この方たちが満足できる活動を目指すことが求められています。
さらに、これからガイドボランティアの増員が福岡市で予定されており、ガイドボランティアの満足度や会に属する喜びなどを味わって貰うための、新たなイベントの企画などを検討する必要があります。

③国際化の進行に対応できる活動が、求められています。
博多の町では、中国・韓国・台湾などアジア各国からのお客様が増えており、外国語でのガイドが求められるようになりましたが、メンバーの中で対応することは難しい現実があります。
この対策として、外国語の話せる他の団体との連携、コラボレーションを検討する必要に迫られています。

私は、ボランティア暦10年目です。喜んだり、落ち込んで悩んだりしながら、私の愛する福岡の町、福岡市を、さわやかな笑顔とおもてなしの心で、お客様に一期一会のこころでご案内したいと思います。
有難うございました。

団体名（会員数）	（団体の住所／連絡先）		
北九州芸術劇場 劇場文化サポーター （ 66 名）	〒803-0812 北九州市小倉北区室町1－1－1－11 北九州芸術劇場内		
	（電　話）	（FAX）	（活動範囲）
	093-562-2535	093-562-2633	北九州芸術劇場内
事例報告者	劇場文化サポーター事務局　野林 眞佐美氏／古殿 万利子氏 劇場サポーター　角戸恒子氏（2期生）／中尾れい子氏（3期生）		

（設立の経緯／活動の特色）

「劇場文化サポーター」は、北九州芸術劇場のボランティア団体です。
北九州市に劇場文化を根付かせたいとして、2002（平成14）年11月、“劇場文化を応援する人たち”という位置づけで発足しました。市民と劇場との架け橋になってもらいたいと考えており、「劇場文化の理解」と「劇場と市民との関係づくり」を活動の目的としています。
1期　2年間を現役活動期間とし、現在20代～70代まで、現役（四期生）30名と、一期生から三期生までのOB・OG36名、合わせて66名が登録しています。

具体的な活動は、「学び」と「実践」に分けられます。
「学び」は、
①劇場に関することをテーマにした講座の受講、　②毎月1回、現役だけを対象として、日頃の活動の中で気付いたことなど意見を交換しあうミーティング、③記者会見に参加したり、芝居の稽古見学をするなど劇場や演劇について理解を深めるための活動、などです。
「実践」は、
①公演のチラシ配布や、物販など、実際の公演運営の補助的仕事で自主事業のサポート活動、
②学びで得た劇場情報を口コミで発信していく情報発信活動、③サポーター自身が公演を鑑賞するとともに、周りの人に一緒に観に行こう、と輪をひろげる草の根的なチケット販売活動です。

サポーターのお世話は、北九州芸術劇場の事務局（職員）が行なっておりますが、事務局では、「学び」と「実践」どちらも相互作用する大切な活動だと位置づけております。
この二つの活動が、サポーター自身の心の張りや誇りにつながり、さらには、劇場や劇場文化への愛着の気持ちを身近な人たちに広げていくことが出来れば・・・と、考えております。

（二人のサポーターさんからの報告）
角戸さん／
○私は、趣味が高じてサポーターに申し込みましたが、入ってみるとそんな軽い気持ちでは出来ないと分かりました。月一度の勉強会は、周りの皆さん（市民）に説明しなければならないため、一生懸命勉強しています。私は、勉強したことを友達に話し、その友達はまた他の人に話します。主婦の力は、口コミだと思います。主婦の口コミを、大いに使ったらいいなと思います。
○サポーターのたまり場があったらいいと思います。仲間と話す時間とたまり場が必要です。
○事務局への注文：今、決まっている活動だけでなく、もっといろいろなことをサポーターの仕事として要望してもらってもいいと思っています。

中尾さん／
○2007年9月からサポーターに。 2年経ち、現在はOGとして活動しています。
サポーターになるのは、活動的な人だけかな？と二の足を踏みましたが、事務局から「自分の生活が優先で、無理しないで良いですよ」と励まされ、2年間、無事に勤めることができました。
○嬉しかったこと ： 公演のチラシを友人・知人に持っていくと、「チケット買ったよ！」と言ってもらったことや、綺麗な女優さんの公演の際、「観に行けないけど、チラシはいただくよ！」など“手ごたえ”があることが、嬉しいです。
○サポートの勉強会で、（コンテンポラリー）ダンスのワークショップを知りました。
私は、ダンスが苦手で興味が無く参加を断っていましたが、他のサポーターの後押しで初めて参加しました。その結果、以前より前に1歩踏み出せた自分に気付き、サポーターをしたおかげと感謝しています。

団体名（会員数）	（団体の住所／連絡先）		
北九州芸術劇場 劇場文化サポーター	〒803-0812　北九州市小倉北区室町1－1－1－11 北九州芸術劇場内		
	（電　話）	（FAX）	（活動範囲）
（ 66 名）	093-562-2535	093-562-2633	北九州芸術劇場内

（事務局からの報告）

反省事項／解決例（その1）

劇場がオープンする前は、ゆとりもあり、サポーターと一緒に大いに学習する機会がありました。
オープン後は十分には対応できなくなり、サポーターから「もっと我々に出来ることがあるのではないか？」との意見が出されました。
そこで、アンケートをとった結果、次のような自主的な活動が生まれました。
①サポーターの名札を、自分達でデザインして作成しました。
②公演に来た劇団に対し、地元のことが分かるように、おいしい店のマップを作りました。
③演劇鑑賞のマナーのチラシを作りました。
④サポータープレスを発行しました。

反省事項／解決例（その2）

劇場オープン後に採用された事務局の職員は、サポーターの存在意義や活動を十分に理解できずに、“サポーターたち何やってんだろ？”と距離が生じました。サポーター側では、職員と仲良くしたいと思っているのに、職員の方がサポーターと一緒になって劇場運営を行なおうとする仲間意識を持てずにいました。
これは以前からいる職員の役目と感じて、
①新しい職員に、サポーターの勉強会に参加してもらいました。
②新しい職員が担当する自分の事業をサポーターにアピールしたり、公演サポート時にお話をしてもらうなどの交流の度合いを強めました。
その結果、双方のわだかまりも次第に解消しました。
今では、お互いコミュニケーションをとりながら、相思相愛の活動となるよう頑張っています。

課題／事務局で課題と思っていること。

①サポーターのモチベーションを高く保ちつづけること。
どのボランティアも、最初はすごく意気込んで来られるが、実際の活動が思ったものでなかったりすると、最初の意気込みは失せていきます。
事務局では、サポーターの存在意義を、サポーターにきちんと伝えるとともに、劇場の職員にもしっかりと伝える必要があると考えています。

②サポーターとの横のつながりをしっかりすること。
サポーターからどのくらい情報が広まっているかを追跡調査することは、現実にできません。
「チラシやチケットが何枚欲しい！」と、連絡をいただくとサポーターの動きは分かるが、それ以外は事務局でつかめません。そのため、“もっと宣伝してほしい！”と一方的に言い過ぎることがあります。
私たちから伝えるだけでなく、サポーターが何をやりたいのか？、どう思っているのか？を事務局では常に把握しておけるよう、サポーターとの繋がりを密にしたいと思います。

③OB・OGとの交流の場をもっと設けたい。
2年間の活動が終わったOB・OGとのつながりは、定期的な情報の郵送と、公演のサポートに不足が生じたとき声をかける程度です。
それぞれの期生間の交流や、期を越えた交流を希望するOB・OGもでてきており、事務局としても「交流の場」を設けたいと考えています。

④サポーター活動の社会的地位の向上をはかりたい。
サポーターの活動は、一見、裏方的で、地味でこつこつとした仕事ですが、公演の時のチラシ渡しなど、劇場の入り口でお客様と接する重要な役目があります。
日頃から演劇を見たり、おもてなしの心やお客様への対応の仕方などを学んでいるサポーターの活動は、劇場を運営するうえでなくてはならない存在です。そのことを、もっと多くの市民の皆さんに知っていただけるよう、それがサポーター自身の誇りにつながるよう、事務局も頑張りたいと思います。

団体名（会員数）	（団体の住所／連絡先）		
九州国立博物館ボランティア	〒818-0118　太宰府市石坂4－7－2 九州国立博物館内		
	（電　話）	（FAX）	（活動範囲）
（　380　名）	092-929-3294	092-929-3980	九州国立博物館内

事例報告者　　九州国立博物館交流課　上野　知彦氏

（設立の経緯／活動の特色）

九州国立博物館は、アジア諸国との相互理解を深める必要から「日本文化の形成をアジア史的視点から捉える」というコンセプトのもとに、国立博物館として1世紀ぶりに、平成17年10月に開館しました。
ボランティアの発足は開館前の平成17年5月からで、開館の準備・研修が始まりました。

九州国立博物館では、ボランティアとの関係を次のように捉えています。

①自らの意思に基づき、縦の関係でなくパートナーとして横並びの関係である。
九博のパートナー（協働者）として、博物館活動の支援推進のために知識・技能をボランティアとして提供してもらいます。

②博物館の業務を補う、単なる無償の労働力としてではない。
ボランティアは、博物館の中で自己実現に役立つ活動ができる人という捉え方で、本人の生涯学習の推進に役立つ活動の場を、博物館は提供しようと考えています。

③博物館だけでは出来ない、プラスアルファの部分を担ってもらう。
年間130～150万人の入場者に、展示物をただ見てもらうだけでなく、日本の歴史、アジアとの文化交流の歴史について少しでも興味・関心を持ってもらい、自分のものとして今後も勉強して欲しいです。
ボランティアの皆さんが介在することで、コミュニケーションや対話が生まれるなど、入館者サービス（プラスアルファの部分）が充実することを期待しています。

④市民の目でみた博物館が創れる。
どうしても行政の目、専従者の目で博物館を見がちだが、市民の目で「こうやったほうが良いのでは！」と新しい事業の創出や改善が期待できます。

ボランティアの活動について

ボランティア担当職員は、私と二人の女性コーディネーターとの3人です。

心がけていること／

○ボランティアが活動しやすい環境づくりと、ボランティアのサポートをすること。
○常日頃より、職員とボランティアとのコミュニケーションをとること。
○博物館側から、あれして、これしてと言うことは出来るだけ控えている。ボランティアからでてくる思い、自主性、主体性を大切にしている。

ボランティアとなる資格・募集／

○高校生以上、　○九博の事業に関心のある方、　○九博の定めるボランティアハンドブックに沿って活動してもらえる方　○任期は、3年、　○募集は、3年に一度

ボランティアの活動／

九州国立博物館のボランティアは、現在、400名いますが、11部会に分かれて活動をしています。
11部会のほかに、手話通訳を必要とする来館者がふえたので、筑紫地区にある手話の会の協力も得ています。
部会は、個人の希望で分かれており、2つにまたがる活動は認めていません。

活動の状況は、

○通常（ウイークデー）が30～40名で、1階の総合案内、幼児や小学生が多いあじっぱの案内、4階の展示室などでの展示案内の活動、直接お客さんが入れない博物館のバックヤードの案内など。
○土・日曜日が　20～30名。
活動日とシフト人数は、あくまでもボランティアが自主的・主体的に決定します。週に、1回が基本です。

団体名（会員数）	（団体の住所／連絡先） 〒818-0118　太宰府市石坂4－7－2 九州国立博物館内		
九州国立博物館ボランティア	（電　話）	（FAX）	（活動範囲）
（　380　名）	092-929-3294	092-929-3980	九州国立博物館内

（活動の特色）

ボランティア活動費／

九州国立博物館のボランティアは、無償で、交通費・昼食費も支給していません。
ボランティア保険や、活動に関する必要な事務用品、事務費、研修などに要する経費は、事務局でボランティア活動費として予算組みしています。
例えば、接遇の研修や障害者の対応にかかわる研修をやりたい！との声が上がれば、研修を事務局の経費として実施しています。

部会の　さまざまな活動紹介／

①展示解説部会　：　4階の展示室の案内を中心とする活動部会
②教育普及部会　：　1階のあじっぱでの体験活動のサポートが中心で、ワークショップの体験教室も開催しています。
③館内案内部会　：　1階フロアを中心に案内業務（日本語、英語、中国語、韓国語）を担当します。
英検やトーイックなどの資格の有無は、問いません。韓国語も韓国に興味がある人や片言でも喋れれば、入ってもらいます。中には、自分たちで研修・勉強会を開いて、スキルアップしている者もいます。
④環境部会　：　全国的にも珍しい部会で、博物館内の環境整備を行なうグループです。
専門的な知識が必要で、館側で研修を開き、勉強をつんでもらい実践しています。
具体的には、殺虫剤など有害な薬物に頼らずに、虫のいない環境を作ろうとするやり方（総合的有害虫管理：I PM）を行なっています。
そのためには、研修を重ね、皆さんで館内を違った視点で巡回します。虫がいたら何の虫か調べ、入った経路を突き止め、遮断するという専門的なことをやっています。
⑤イベント部会　：　ボランティアが計画・実施するイベントで、毎年、餅つき、写真展などを行なっています。
⑥資料整理部会　：　郷土人形の調査研究を、学芸員や職員のサポートのもと行い、成果を出します。
⑦サポート部会　：　部会を超えた交流が今までなかったので、2年前にできました。
交流会を開いたり、お互いの部会の活動を紹介する広報誌を作成する部会です。
⑧学生部会　：　いつもは活動しないが、コンサートのときに前座で劇をしたり、七夕まつりのとき、浴衣を着て花を添える活動など、イベントのサポート的な活動をしています。

事務局から／

私個人としての今後の希望

今年の夏の阿修羅展に、71万の来館者がありました。展示物がよければ、人は来るものです。
しかし、私の希望は、展示物で人を呼ぶ博物館ではなく、中にいる人で呼べる博物館にしたいです。
九州国立博物館にはボランティアがいるから行こう！と、そういった博物館をめざして行きたいと思います。
ありがとうございました。

（博物館巡り）

この後、バックヤードツアー（黄色の名札）、館内案内（桃色の名札）、展示解説（青色の名札）別に別れ、九博のボランティアさんの案内で「文化ボランティア活動の実体験」に出発しました。

団体名（会員数）	（団体の住所／連絡先） 〒810-0063 福岡市中央区唐人町3－1－11 当仁公民館内		
とんとんぶんこ	（電　話）	（FAX）	（活動範囲）
（　21　名）	092-751-6824	092-751-7548	当仁小学校校区
事例報告者	（代表）草野　裕子氏／　西野　恵子氏／　新田千奈美氏 松村　光子氏（福岡市当仁公民館主事）		

（設立の経緯／活動の特色）

福岡市立当仁小学校区には、以前より育成会文化部の活動として「当仁文庫」があり、本の貸し出しが行われていました。年を追う毎に子どもたちの本離れが進み、それを止めることができれば、との思いより平成9年　公民館に「絵本を楽しむ会とんとん」を発足し活動を開始しました。
その後、ボランティアメンバーを募り　9名にて平成10年「とんとんぶんこ」に改名し、ボランティアメンバーが中心となって現在の活動の基本を作りあげ 今に至っております。

いも、いも、いも
にんじん、にんじん、いもにんじん
魚（さかな）、魚、いもにんじん魚
しいたけ、しいたけ、いもにんじん魚しいたけ
ごんぼ、ごんぼ、いもにんじん魚しいたけごんぼ
ろうそく、ろうそく、いもにんじん魚しいたけごんぼろうそく
しちりん、しちりん、いもにんじん魚しいたけごんぼろうそくしちりん
はまぐり、はまぐり、いもにんじん魚しいたけごんぼろうそくしちりんはまぐり
くじら、くじら、いもにんじん魚しいたけごんぼろうそくしちりんはまぐりくじら
とっぱい、とっぱい、いもにんじん魚したけごんぼろうそくしちりんはまぐりくじらとっぱい

これは「いもにんじん」といって、筑後の数え歌だそうです。とっぱいは、筑後で豆腐のことを言います。
この絵が歌詞カードです。もう一度歌いますので、一緒にうたってください。
～～繰り返し～～
この数え歌を　2回繰り返した。ざわついていた休憩後の会場が落ち着きを取り戻した後、報告が始まった。

草野／こんにちは、「とんとんぶんこ」の草野と申します。
私たちは、当仁小学校区　当仁公民館を活動の拠点としている、読み聞かせのボランティアです。
20数名で「子どもに良い本を届けたい」との思いをもって活動しています。

活動内容は、①公民館文庫（蔵書約2000冊・総合図書館貸出本）の月2回の貸出
②幼稚園・小学校での読み聞かせ　③公民館事業・サークルでの読み聞かせ
④乳幼児親子向けの親子遊び・手作り会　⑤季節にあわせたおはなし会等
福岡県内には多くの文庫が存在し、行政もボランティア講座・交流会を開催している為、メンバーもこれらに参加することで勉強しております。また他の文庫と交流を持つ事で悩み事などを共有し合いながら日々活動をつづけています。

松村／当仁公民館の松村です。「とんとんぶんこ」の成り立ちをお話しします。
私は、子育て時代、子ども育成会会議で本の貸出の手伝いをしていました。年々利用者は減少していきました。その後、公民館主事を任されることになり、何かできるのでは？と、考えました。

乳幼児を持つお母さんの勉強会の中で、読み聞かせを取り入れました。
講師には、読み聞かせの大切さや親子遊びの講座をお願いしました。そのうち公民館でも読み聞かせの文庫活動を始めたいと思い、絵本を楽しむ会「とんとん」を立ち上げました。
何度も何度も読んだ本、想い出が詰まった本を持ち寄り、自分たちも楽しみながら月に数回集まってみたが、なかなか輪は広がりませんでした。

そこで再び講師を招き、10回の計画で絵本の読み聞かせ講座を開きました。
その中では、日本語の大切さ、育児との関係、方言で語る民話、明るい声の出し方、読み聞かせの合間の手遊び、パネルシアターの作り方や演じ方、本の持ち方などを学びました。
講座終了後、9名の受講生がスタッフとして残ってくれました。
その中に、当初の乳幼児教室のメンバーが残っていてくれたのは嬉しかったです。
名前も「とんとんぶんこ」と改め、リーダーに活動をバトンタッチ。
読み聞かせの活動するにあたり、体験の積み重ねが必要です。「とんとんぶんこ」メンバーには、講師料を支払って乳幼児教室や育児サークルで活躍してもらっています。
今では、草野代表を中心に活動しています。

団体名（会員数）	（団体の住所／連絡先） 〒810-0063 福岡市中央区唐人町3－1－11 当仁公民館内		
とんとんぶんこ	（電　話）	（FAX）	（活動範囲）
（　21　名）	092-751-6824	092-751-7548	当仁小学校校区

新田／具体的な内容について話します。
「とんとんぶんこ」も今年で13年目です。
文庫活動／
立ち上げ当初のメンバーは減りましたが、活動に興味を持った人が次々と加わり、活動の幅は大いに広がりました。
公民館での定期活動は、月　2回の文庫活動。利用者も年々増えて、今では親子で一杯の状況です。
赤ちゃんから、小学校低学年までの子どもと保護者です。
文庫では、一人5冊まで。2週間貸出し、利用のたびにカードにシールを貼っています。 カードがシールで一杯になった子どもさんには、賞状とプレゼントを準備しています。
蔵書は2，000冊ほど。新しい本を買う余裕はないので、市の総合図書館の団体貸出を利用して、定期的に360冊くらい入れ替えています。
総合図書館の除籍本を貰いうけたり、寄贈本を受け入れて蔵書を増やしています。

お話し会活動／
赤ちゃん向け、幼児向け、小学校向け、大人向けなど対象年齢を限定して、季節ごとに開催しています。
公民館主催の育児教室では、2ヶ月に一回お話し会を入れています。絵本を中心に、手遊び、わらべ歌なども。　その他にも、2～3歳の育児サークル「うりぼう」や、ゼロ歳から未就学児サークル「あいあい」などから依頼されて、お話し会を開いています。
子どもの成長に合わせて、絵本を選らんだり、手遊びやわらべ歌をすることは、一番難しいことです。
そのために本の知識を高めたり、わらべ歌などを学ぶことを、日々頑張っています。

西野／　幼稚園、小学校、中学校でのお話し会の様子を話します。
お話しの楽しさや、本のある世界の素晴らしさ大切を伝えていきたいという思いから、始めました。
最初は理解してもらえず、
幼稚園では／　保育への自由参加の時間に、対象は自分の子どもが一人という状態から始めました。
そのうち、一人づつ子どもが増え、幼稚園も認めてくださり、4年前からは保育中にお話し会で入るようになりました。
小学校もおなじ／　まず、わが子の担任に交渉します。
集団で聞く楽しさ、見る楽しさ、豊かさを味わって欲しいという思いを伝え、まずは一クラスからスタート。
今では、全学年、全クラス、毎学期ごとに入っています。（スクリーンを利用して説明　～略～　）
小道具を使い、手遊びをします。（スクリーン：黒の軍手に猫とねずみを縫い付けての手遊びの様子・・・）
私たちも緊張して教室に入りますが、子どもたちも構えています。小道具は、それを解きほぐす役目も。
特別支援学級では／　2 年まえから、スケジュールが合えば、授業中に入っています。
中学校は／　今、スタートしたばかり。

子どもたちの前で本を読むには、私たちも常に勉強が必要です。
研修会や講演会、勉強会に積極的に参加します。自分たちで、声の出し方や本の読み方、養成講座なども企画しています。

課題は／
どんなお話し会でも、事前の打ち合わせ、そこでの本選び、流れの検討、そして本番と学期ごとに12回以上も集まっています。やることは、沢山あるり、家を空けることが多くなってきます。
もっとも大きな課題は、メンバー不足。実働できるのは、十数名です。・・・何か名案を！

草野／
子どもたちに本の楽しさを伝えたいと、メンバーは頑張っています。それぞれに負担をかけないように、少しづつ役割を決め、担当しています。
自分たちのために、しゅちゅう打ち合わせ会をやっていますが、この文庫の活動は、義務ではなく楽しんでやることが大事です。「とんとんぶんこ」での時間は、日々の生活への潤滑油にもなっています。
多くの子どもたちに、本の楽しみを知ってもらえれば、と願います。

最後に、科学の本を読むときの手遊び、　・・・まずグーとチョキを作って・・・　“でんでん虫”・・・を、会場の皆さんと行ないながら終わった。

団体名（会員数）	（団体の住所／連絡先）		
古賀市文化のまちづくりの会	〒811-3192　古賀市駅東1－1－1 古賀市教育委員会　社会教育課内		
	（電　話）	（FAX）	（活動範囲）
（ 18 名）	092-942-1347	092-942-3758	古賀市内
事例報告者	古賀市教育委員会　社会教育課　　岩熊　和洋氏 古賀市文化のまちづくりの会　　加藤　誠一氏		

（設立の経緯／活動の特色）

平成18年度福岡県立美術館所蔵品巡回展（移動美術館展）が古賀市で開催され、その運営スタッフとして応募したメンバーを中心 として 平成19年度「古賀市文化のまちづくり リーダー会議」として発足。
その後、平成 21年度「古賀市文化のまちづくりの会」と改称して、現在にいたっています。

行政の立場／岩熊がお話しします。

古賀市は、こがアートタウン構想を市長が提唱し、日本一住みたいまちになることを目指しており、県内で4番目に文化芸術振興条例を策定、平成21年4月より施行しています。

市長は、豊かな市民生活の実現、活力ある地域社会の形成を図るため、第1回文化芸術審議会で、まちづくり、健康づくり、人材づくりの三つのビジョンを明確化しました。
文化芸術の振興は、人の心を豊かにします。まちに変化をもたらし、市民の健康にもつながります。
美しいまちは市民が誇りに思い、外からも人が来ます。担い手は市民一人ひとりであり、楽しく取り組んでいきたいと思います。

文化ボランティアの誕生／　平成18年度の移動美術館展で、15名のボランティアを公募しました。
募集の条件は
①応募の動機を、800字程度の文章にする。　②3回の事前研修に全て参加すること。

とても高いハードルに思えたが、移動美術館展に求められるボランティアは、人一人の感性をゆすぶる程の心意気が必要であると考えて募集しました。
その結果、18名の応募があり、全員にお願いをしました。
移動美術館展には、18日間で、3，000人の来場者があり、文化ボランティアのスムーズなサポートに来館者から賛辞をいただくほど、好評でした。

「古賀市文化のまちづくりの会」の発足／

古賀市では、この文化ボランティアを改組して「古賀市文化のまちづくりの会」を発足。
活動の条件は、次の2点です。
①文化芸術の振興を図る自主活動を実施すること。　②民間及び市の文化芸術活動をサポートすること。

平成20年度に予算がつき、これまで練り上げてきたものが実施出来るようになりました。

自主活動／　地元作家展を実施しました。

地元作家展の実施は、メディアにも取り上げられ大好評でした。　このほか、ワークショップの開催など。
ワークショップは、朗読やダンス、ボディーパーカッションを取り入れたもので、これは古賀市民劇団の旗揚げ公演につながりました。

サポート活動／　ミュージカル公演のサポートをしました。

ミュージカル公演では、ボランティアに、舞台の流れを把握するため役者と同じ回数だけ練習に参加してもらいました。これは、黒子として時間と体力を使い、文化芸術を一生懸命支える、目立たないが一番必要な活動だと思っているからであります。

平成21年3月には、古賀アートランド作戦を開催しました。
これは、開放された場所で市民が自由に造形を行なう企画で、地元作家や九州産業大学の学生が参加しました。このなかで、ベニヤ板などは十分準備しましたが、のこぎりは、わざと少なめにしました。これは道具の貸し借りからコミュニケーションが、自然発生することを狙ったものです。
参加者は、造形を楽しみながら、人と人とのコミュニケーションも楽しむことが出来たものと思います。

団体名（会員数）	（団体の住所／連絡先） 〒811-3192　古賀市駅東1－1－1 古賀市教育委員会　社会教育課内		
古賀市文化のまちづくりの会	（電　話）	（FAX）	（活動範囲）
（ 18 名）	092-942-1347	092-942-3758	古賀市内

古賀市文化のまちづくりの会／活動内容

活動内容は、毎月 1回の定例会で支援活動や企画の調整を行い、市民や行政の文化活動をボランティアとして支援するとともに、文化芸術の振興による （1）さまざまな文化芸術の紹介、（2）人や地域のネットワークづくり を目的とした 独自企画を実施 しています。

【平成20年度の企画内容紹介】

①独自企画 ： 地元作家展、中国民族書画コンサート、舞台芸術ワークショップ
②民間団体との共同企画 ： 古賀市民オーケストラ定期演奏会、、キャンドルナイト
③古賀市との共同企画 ： 公共ホール音楽活動活性化事業、アートランド作戦
④古賀市と民間との共同企画 ： 市民ミュージカル公演、第九公演

加藤／つづきまして、加藤が物語を述べてまいります。

私は、現在72歳で、会社に勤めるだけの生活でした。
自然の移ろいを感じながら、立ち止まったりする余裕もなく、ただ、がむしゃらに働いてきました。
その反動でしょうか、残りの時間を自分のために使おうと決めました。不思議なもので2年もすると、暇を持て余しているというのではないのに、なぜか世の流れに取り残された寂しさを感じていました。
そんな時でした。先に報告した岩熊氏がおとづれたのは。一点美術館に作品を出展して欲しい、と。

私は、20代から木版画に魅せられ、年賀状程度ですが、彫り続けていました。
彼が来る前、太平洋美術会賞をいただき、美術会誌に私の作品が載っていました。それを見て、古賀市で作品の展示を、と。これが社会教育課との出会いです。
これがきっかけで文化のまちづくりリーダー会議に参加し、ボランティアに関する研修の中で、メンバーは戸惑いながらも、次第に意欲を高めていきました。

その前の年、孫に勧められ、一緒にオペラを演じる会に入りました。
しかし、現実は厳しい。年寄りの演劇経験ゼロの私は、厄介者でした。
練習は、まず笑顔を作ることから始まり、次に、いかにも楽しげに飛び跳ねる練習です。
これをお酒も飲まずにやるのです。男はむやみに白い歯をみせるのではないとか、飛び跳ねるなど、日本男子がやるべきではない、などと教えられて今日まできた私でしたが･･･。それをやってきたので、心中、おかしなものがあります。
だんだんオペラに魅せられ、気がつくと自然と鏡の前で作り笑いをする自分に気付き、だれ彼となく会話ができるようになり、心を許せる友人もできました。
3年目には、会としてどうにか形が整えられるようになって、CMO古賀と名称を変え、私が年長者ということだけで会長を押し付けられ、サウンドオブミュージックを上演しました。

文化、芸術とか口にすることは簡単ですが、その中に入って動くと、どんな些細なことでもそれは大変な忍耐と努力が必要であります。仲間を信じ、迷い、それを繰り返すうちに自分の立場が見えてくるのだと思います。
舞台裏での準備から、演劇グループ、文化のまちづくりの会など、いろいろな経験が教えてくれました。
動いた者だけが知る喜びがあります。上演終了後、舞台の裏側で、顔をくしゃくしゃにして抱き合ったり、感動することは、その中で動いてきたものだけが感じる褒美だと思います。

古賀は、何もないまちと言われます。物足りないまちかも知れませんが、文化芸術が市民の目に触れる環境になってきました。一日も早く、文化のまちになって欲しいと願っています。

12月20日旗揚げ公演として、古賀バージョン「オズの魔法使い」「舞里の不思議な大冒険」として現在、稽古中です。猛特訓の成果を是非見に来てください。